

公開審査会の流れと結果発表!

公開審査会の流れ



審査のポイントは?

1. 「福祉のまちづくり総合計画」との整合性 (企画提案の目的と基本方針の一致)
2. 公共性 (地域への貢献度、ユニバーサルデザインの視点)
3. 創意工夫 (地域独自の資源の活用、新しいアイデア)
4. 多様な人との連携 (地域の複数組織との連携、多様な区民の参加)
5. 福祉のまちづくりの普及 (活動の発展性、他の地域への普及効果)
6. 実現性 (計画性、人材・資金の確保、地域合意)

基本方針 1 2

- ①道路 歩きやすい歩きたくなる道づくり
- ②公園 また来たくなる、楽しめる公園づくり
- ③駅 駅はまちの中心。駅からはじまる福祉のまちづくり
- ④自転車 人と自転車が共存し、仲良くできるまちづくり
- ⑤建物の整備 行きやすい、入りやすい、使いやすい建物や施設づくり
- ⑥建物の管理 建物を活かす、総合的な運用やサービスの提供
- ⑦まちづくり 建物や施設のつながりに配慮して、バリアフリーに
- ⑧交流・学習 出会う交流、学んで行動、「気づき」で変える
- ⑨情報 手に入れやすく、分かりやすく、使いやすい情報の輪
- ⑩買物 みんながうれしい、商店街でハートフルなおもてなし
- ⑪安全安心 いざというときにも安全安心。ふれあいのまち
- ⑫身近な外出 気楽にお出かけ。行きたいところへ、行きたいときに

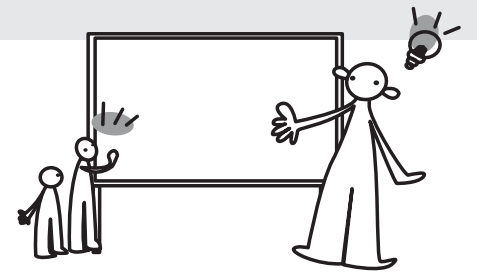
審査の結果発表

部門	プロジェクト名	提案グループ	審査	得点	助成決定	申請額
はじめの一步 助成部門	1-1 認知症にやさしい地域づくり (支えあい 広めよう)	「白い箱の会」	1次	●●●●●●●●	●	5万
	1-2 ワークショップ「ひまわり」	ひまわりネットワーク	1次	●●●●●●●●	●	5万
	1-3 eコミュニケーション (障害のある方とのIT交流会)	eコミュニケーションねりま	1次	●●●●●●●●	●	5万
パートナーシップ 地域活動助成	2-1 ハッピーライフのご提案 認知症にやさしいまちづくり	認知症予防推進員の会 ミニ講座・劇グループ	1次	●●●●	●	30万
	2-2 モビリティ・マネージャーの養成	特定非営利活動法人移動支援フォーラム (研修担当)	1次	●●●●	●	30万
	2-3 公園 DE 認知症予防	認知症予防推進員の会 「居場所づくり」グループ	1次	●●●●●●●●	●	30万
	2-4 障害者と共に生きる ゴミの無いまちづくり	すずしる環境開発事業協同組合 & やまびこ第二作業所	1次	●●		30万
	2-5 みんなが喜ぶ街の駅	仮称「人は石垣隊」	1次			30万
	2-6 「緑で元気になろう！」プロジェクト	練馬ふくしの輪	1次	●●●●●●●●	●	30万
設備整備 助成	3-1 ベンチがあるまちなかの楽しい公園の様な散歩道	練馬地域福祉ハートフルアクターズ	1次	●●●●●●●●	●	45万
	3-2 地域と障害者をつなぐ ステップ・ガーデン	ステップ・ガーデン	1次	●●●●●●●●	●	85万
	3-3 まちなか「ほっとベンチ」設置	練馬駅南口ほっとベンチ協議会	1次	●●●●●●	●	76.5万

※5点以上で助成決定

こんなやさしいまちにしたいなあ

公開審査会で発表された活動提案をご紹介します



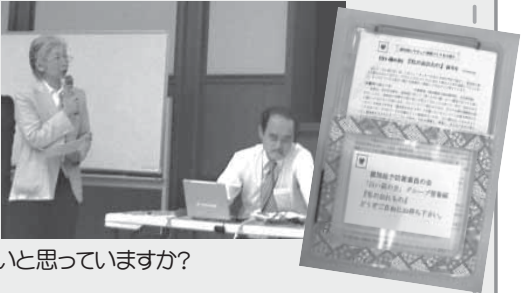
「はじめの一步助成部門」×3団体.....

認知症にやさしい地域づくり (支えあい 広めよう)

○地域で認知症に関する知識の基礎づくりを
認知症にやさしいまちづくりを目指して、地域の皆さんがともに学び考え、互いに支えあっているような活動を展開していきたい。事業計画としては、情報提供としてニュースレター「私の忘れもの」の配布(月1回)、学習会・研修会の開催、施設やまちづくりに取り組んでいる団体の見学の三つを考えている。ニュースレターについては、認知症予防の意義と方法、認知症の症状とその関わり方といった内容を、現在活動中の施設の周辺住民や商店街、高等学校、幼稚園および病院などに配布していく。

【質疑応答】
Q 活動グループの方は、認知症に関する専門的な研修などはどのような形で受けていますか?

→練馬区の認知症予防推進員養成講座や福祉の現場や書籍等で学んできている。
Q 福祉のまちづくりという観点で、どう



白い箱の会

いうまちにしていきたいと思っていますか?
→第一歩としてニュースレターで地域に呼びかける。そして、学習会を開催し、地域の皆さんが顔を合わせて、認知症に関する知識の基礎づくりを行う。地域の中で認知症の方に対する気づきや対応が可能となってくる。これがまちづくりの基本となると思う。

ワークショップ「ひまわり」

○まちの美化活動を通じた町会と福祉園のさらなる交流
福祉園が、祭りのおみこしの休憩所になったことをきっかけとして、それまで関係のなかった町会と福祉園の連携がはじまり、昨年地域に開いた喫茶コーナーが福祉園にできた。町会行事への福祉園の参加、一方で福祉園の活動に対する町会の協力もしている。地域に溶け込もうとしている福祉園を町会は応援していきたい。そこで福祉園の利用者・家族・職員が地域の一員として参加できるようにまちの美化活動と一緒に取り組んでいきたい。活動では、喫茶コーナーにおける話し合いや準備作業などを行うことを通じて、さらなる交流を深めたい。

【質疑応答】
Q: 将来のまちづくりへの展開はどう考えているか?
今年の活動をきっかけに交流を深めてネットワークを広げ、今後は周辺町会にも広げていきたい。現在は、おまつりの打合せなどを通じて、喫茶コーナーの存在を他の町会の人にも伝えている。



ひまわりネットワーク

eコミュニケーション (障害のある方とのIT交流会)

○ITを使った交流会で障害のある方の情報交換や
仲間作りのきっかけに
これまで障害者のIT支援に関する勉強会を行ってきた。今年は障害のある方と地域の方を対象としてITを使った交流会を実施する。障害のある方の外出や情報交換、仲間作りのきっかけづくりをしたい。具体的には、参加者がデジカメで撮影した写真を使って名刺、カレンダー、ポストカードを作成する。

【質疑応答】
Q 地域との交流という点ではどのように展開していくのか。
→地域の人は障害のある方がどこにいるかも分からないので、まずは会って知ってもらう機会にしたい。参加者にメーリングリストの登録を呼びかけてネットワークを作っていきたい。

Q メーリングリストは閉鎖的なので、電子掲示板やオフ会など、地域に開いた形にしてはどうか。
→最初はリスクを考慮してMLといった限定した形を考えたが、今後はBBSなどを設けて、地域に広げていきたい。



eコミュニケーションねりま